



医学部長 就任の ご挨拶

山形大学医学部長
永瀬 智
NAGASE Satoru

令和6年4月から、上野義之前医学部長の後を引き継ぎ、医学部長を拝命しました。昨年度、山形大学医学部は創立50周年を迎えましたが、次の50年を見据えた基盤強化・組織改革、そして、教育プログラムの見直しに取り組んでいます。医学部のさらなる発展に尽力していきたいと思っておりますので、ご理解、ご協力のほどよろしくお願いいたします。

飯田キャンパスでは様々な工事が進行中ですが、「創立50周年記念事業」の1つとして改修された50周年記念講堂(前の大講義室)が完成し、4月3日に新生を迎えることができました。新しい基礎臨床棟には歯科口腔外科学講座が移り、事務部門の大部分が一か所に集約され、機能的になりました。現在建設が進められているYU-MAIセンターは医学部図書館と連結し、シミュレーション教育、アクティブラーニングなどを行う先進的な教育施設となります。さらには、新しい医療機器開発や創薬の拠点、関連病院とのネットワークのハブ機能としても期待されています。未来の医療を支える人材育成のために教育環境の整備を進めておりますので、「山形大学医学部教育研究支援基金」へのご協力もよろしくお願いいたします。



YU-MAIセンター 完成予想図



YU-MAI センターの 開設に あたって。

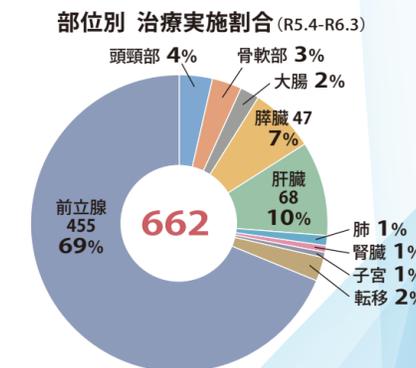
山形大学医学部附属病院長
土谷 順彦
TSUCHIYA Norihiko

今から約7年前、山下医学部長を中心として当時から老朽化していた図書館、医学部会館、管理等の機能を集約し、教育・研究と学生支援機能の強化を目指した新たな施設整備の計画の話合いがもたれました。慢性的な学習スペースの不足や情報の電子化への対応の遅れに対応すべく、「ラーニングコモンズ」や「リモート講義室」というキーワードを基に「医学部メディカルセンター」という名称で施設整備の議論が始まりました。その計画が、上野医学部長の主導の下に「YU-MAIセンター」という新たな形で実現したことは感慨深いものがあります。途中、コロナ禍によるオンライン会議の普及やAI技術の急速な導入が進み、医学教育や医療を取り巻く環境も大きく変化しました。「ラーニングコモンズ」は学内外のステークホルダーが協力し、共に学び創造するための場としての「イノベーションコモンズ」として、地域社会や社会全体へより開かれたコンセプトに刷新されました。「リモート講義室」も、ICT機器を活用したインテリジェント講義、VRやARを用いた実習、遠隔医療教育など、昨今のデジタル変革(DX)に対応する最新の技術を導入したものに生まれ変わりました。これらの設備とプログラムの整備により、山形大学医学部はデジタル技術を駆使した革新的な教育を提供し、地域社会と密接に連携しながら、次世代の医療人材の育成に注力していきます。県内の関連医療機関のみならず、引き続きご指導賜りますとともに、「イノベーションコモンズ」としてのご活用には是非ともご協力いただけますようお願い申し上げます。



年間目標治療人数達成！ 東日本重粒子センター

山形大学医学部東日本重粒子センターでは、文部科学省に向けてセンター設立のための予算を申請した約10年前に、安定的な施設運営のための年間目標患者数を600人と設定しました。それ以後、数字を600人と設定し、2022～2027年度にも中期計画（2022～2027年度）にも期間内に達成する数字として年間600人を明記しました。秋に全面稼働を開始した一昨年度は524人でその目標には届きませんでした。昨年度は目標を大きく超える662人に重粒子線治療を施行し、第4期6年間のうち最初の2年目で



その目標を達成することができました。要因を分析すると、山形県内の数多くの患者さんから当センターを選択していただいたこと、肝臓や膵臓など保険適用部位が増えて95%以上の患者さんが保険診療で治療できるようになったことが大きいと考えています。

この目標を達成するため、昨年12月14日にはオンラインセミナーを開催し、宮城県内を中心にご参加の方々に重粒子線治療についてお伝えすることができました。また、今年2月9日には秋田大学のご協力を受けて秋田市で初めて企画したセミナーは大盛況に開催することができ、昨年度後半から秋田県からの治療申し込みが増えました。今年度は9月30日(月)に青森市のホテル青森



今年6月1日からは、これまでの保険適用8疾患に加えて、I～IIA期の肺癌、長径6cm以上の子宮頸部扁平上皮癌、婦人科領域悪性黒色腫(いずれも手術による根治的な治療法が困難なものに限る)が新たに公的保険適用になりました。北日本で唯一重粒子線治療を提供できる施設として、これからも益々たくさんの方に使用いただけるよう、日々の治療と広報活動を続けてまいります。これからの東日本重粒子センターをどうぞよろしくお願いいたします。

で、12月15日(日)には山形市の山形テルサにおいて医用原子力技術研究振興財団との共催で一般の方向けセミナーを開催します。他にも関連して日本加速器学会山形開催に合わせ、「病院で活躍する加速器(病気を狙って治す令和のスーパードクター)」と題して鹿戸将史放射線診断学分野教授と小藤昌志放射線腫瘍学分野教授(令和6年7月1日就任予定)が講師を務める市民公開講座を7月31日(土)にやまぎん県民ホールで開催します。さらに11月9日(土)には一般の方向けに重粒子センターの見学会を予定しています。もしご興味があればこちらもご参加いただけたらと思います。



大盛況に終わった秋田市での市民公開セミナー

山形大学Well-Being研究所の設立 — 山形県民のWell-Beingのために —

山形大学医学部が長年実施してきた、健康診断受診者を対象とする「山形コホート研究」の成果から、健康寿命を延ばすためには、身体だけでなく、心の健康と人とのつながりも重要であることが明らかになりました。そ

で、私達は、県民一人ひとりの体と心が健康で、人や社会とのつながりがよい状態(これをWell-Beingと呼びます)の実現を目指して、令和5年4月1日付けで、山形大学Well-Being研究所を飯田キャンパスに設置しました。この研究所

では、山形大学のすべての学部の研究者が、自治体、企業、医療機関、教育研究機関と連携して、個人と地域のWell-Being(へりを支援し、社会実装する活動)を行います。

令和5年度には、本研究所は「Well-Being」をテーマとした新規研究を16件立ち上げており、そのテーマは食、スポーツ、医療、介護、創薬、AI、生体センサー、行動科学など、多岐に渡ります。さらに、一人ひとりに個別化した健康アドバイスをお届けするために、スマートフォン上で使用できる「Well-Beingアプリ(仮



Well-Beingアプリ作成チーム

Well-Beingアプリ(仮



り、利用者の意識や行動を変え、健康寿命を延ばし、Well-Beingにつなげたいと考えています。令和6年度には、山形県内の各自治体や健診施設の協力を得て、地域住民の皆様1,000人程度の協力者にアプリを試行していただき、令和7年度以降には山形県内で数千人の方に使っていた計画です。忙しい毎日を送っている方が、気軽にご自分の状態を確認し、健康行動を始める・続けるためのサポートとなるように様々な工夫や有益な情報を盛り込んでいきます。また、アプリを通じて収集したデータは、健康、福祉政策の立案にも活用いただけるように県内自治体との連携も一層進めます。これらの研究成果も山形県民に還元し、さらに身体と心との健康、人とのつながりが進むように努めますので、本研究所の今後の活動にご支援とご協力をどうぞ宜しくお願い致します。



健康で幸せな生活を送るために

新任教授のご挨拶

①出身地 ②出生年 ③出身校 ④趣味等



山形大学医学部
感染症学講座 教授

濱本 洋
HAMAMOTO Hiroshi

①熊本県 ②1975年 ③東京大学大学院 ④旅行・読書

2023年4月に山形大学感染症学講座の教授に着任した濱本洋と申します。一回り経ち、研究室のセットアップも進めながら、研究教育活動に邁進しています。前職は帝京大学医真菌研究センターでした。そこでは真菌の研究に携わりつつ、主に黄色ブドウ球菌に有効な新規抗生物質ライソシン E の開発研究を推進していました。ライソシン E はその高い殺菌性から、現在前臨床試験が進められている新規抗生物質です。感染症学講座は、ウイルス、細菌、真菌を幅広く取り扱う国内でも珍しい体制を整えています。研究室では、インフルエンザに関する疫学や増殖機構の解明に加え、ライソシン E を含む新しいメカニズムの抗菌・抗真菌治療薬の開発に取り組んでいます。また、細菌の病原性発現機構、ウイルスの増殖

機構や疫学、乳酸菌に関する研究も行っています。研究手法も、微生物学だけでなく、タンパク質の精製や天然物化学から、次世代シーケンサーを用いたパイオインフォマティクスまで幅広く活用しています。微生物に関連する分野に関することでしたら気軽に御相談ください。さらに、昨年度からは大学院における臨床感染症教育プログラムの立ち上げを行い、諸先生方の御協力により充実したプログラムができました。医学科や看護学科の大学院生の方々には、ぜひ聴講していただきたいと思います。今後とも山形大学における感染症関連の教育研究を盛り上げていく所存ですので、どうぞよろしくお願い申し上げます。



山形大学医学部
眼科学講座 教授

杉本 昌彦
SUGIMOTO Masahiko

①大阪府 ②1970年 ③三重大学 ④ライブ参加、ハロープロジェクト

2023年5月1日より山形大学眼科の教室運営を担当させていただいている杉本昌彦(すぎもと まさひこ)と申します。

山形大学医学部眼科学教室は医学部の開学と同時に設置され、本年50周年を迎えます。歴史ある当教室は高橋茂樹名誉教授、山下英俊名誉教授のご指導のもと、これまで輝かしい業績をあげてきた長い歴史を誇る教室です。これまでに諸先生方が築きあげてきた素晴らしい伝統を受け継ぎ、さらなる発展を目指して確実に前進していきたいと思っております。

眼は、ご存じのように外部からの情報入力80%以上を占めるといわれる大切な器官です。大きき3cm足らずの小さな組織ですが、失明にいたる重篤な疾患がおこります。しかし最近の医療技術の進歩により、以前には診断・治療が困難であった

疾患の視力回復や予防が可能になってきています。視機能低下の不安に立ち向かう患者様の苦しみをともに理解し、寄り添って最先端の医療を提供することができるよう、教職員一同努力したいと思っております。

また山大眼科では、教育と研究にも力を注いできました。治療による視機能改善は患者様の大きな喜びとなり、私たちの仕事はそれをダイレクトに感じることができる代えがたい仕事です。学生や研修医の皆さんには眼科診療・研究の魅力を十分に味わっていただけるような教育を行ない、県内各地はもちろん国内外で活躍できる人材を育成してゆきます。

今後とも皆様からご支援・ご指導を賜りますよう宜しくお願い申し上げます。

地域医療を担う病院に 質の高い病理診断を提供します ～デジタル病理検査室の利用をお勧め～

TOPICS

山形県の病理診断における問題として、病理診断を実施する病理専門医が偏在していること、病理検査に必要な病理検査室の設置に経費がかかること、が挙げられます。このため、地域医療を担う病院の大半では病理検査を「外注」しなくてはならない状況です。

現在、山形大学医学部病理学講座は、公立置賜総合病院、山形県立新庄病院、米沢市立病院、鶴岡市立荘内病院、最上町立最上病院、山形済生病院、山形市医師会と連携しています。本来は、各病院に病理専門医を常勤として配置したいのですが、現在は連携病院に病理医を非常勤で派遣しています。しかし病院間の移動で時間が浪費されます。我々病理学講座は、県からの補助金を得て生検や手術検体のガラス標本をデジタルスライドへ変換できるシステムを導入しました。現在、連携病院の術中迅速診断をデジタルスライドで実施しています。さらにこの技術を活用し、地域医療を担う病院にも質の高い病理診断を提供しようと考えております。具体的には、病理検査室を持たない病院であっても、採取した検体を山形大学病理学講座に送付するのみで、病理診断の結果をデジタル回線を受信できる、デジタル病理検査室を病理学講座内に来年度に設立する予定です。デジタル病理検査室の導入により結果が得られるまでの時間が短縮されます。さらに大学病院と同じ質の高い病理診断・個別化医療の情報を共有することが可能となります。

日々の地域医療を担う病院において、病理検査の導入、病理診断の質の向上、ゲノム医療の導入を考慮する方々には、このデジタル病理検査室は役に立つと考えております。興味を持たれた方は、ぜひ山形大学医学部病理学講座までご連絡ください。(連絡先は本誌最終ページをご参照ください)

デジタル病理検査室の概要



デジタル病理検査室のメリット

病理検査室の設置が不要
大学病院と同レベルの診断を外注より短時間で

VR(仮想現実)を活用した新しい リハビリテーション

TOPICS

令和5年12月より、VR(仮想現実)を活用したリハビリテーション医療機器「mediVRカグラ」を山形県で初めて導入しました。mediVRカグラは、仮想空間上の狙った位置に手を伸ばす動作を繰り返すことで、姿勢バランスや、認知課題と運動課題に同時に応えることを必要とする二重課題型の認知処理機能を向上させる医療機器です。VR空間上に表示される対象に向かって手を伸ばすという、一見、ゲームの様に思えるリハビリですが、神経科学、行動科学の知見から開発されました。目標動作をうまく行えたときに視覚・聴覚・触覚と多方面から強力にフィードバックをすることで、身体の動かし方を効率的に脳に再学習させ、機能回復を促します。カグラのプログラムは、椅子に座ったまま左右交互に腕を伸ばしていく課題であるため、転倒などのリスクが低く、立位姿勢の保持や歩行が難しい方も安全に取り組むことができるのも特徴です。

この機器の導入は、山形県からの寄附金(寄附講座「地域医療を担う医師等のキャリア形成推進講座」)により、山形大学医学部病理診断学講座の二口充教授のご指導の下、大学病院から遠方に住んでいる県民にも最先端の医療を提供できるシステムの導入を計画するところから始まりました。超高齢社会を迎えた山形県において、「地方に住んでいても先進的な医療にアクセスしたい」というニーズの高まりに対して、歩行機能、上肢機能、失調症状、認知機能、疼痛など幅広い疾患に対応でき、Web会議システムを使用することで遠隔医療での活用も可能となっています。地域の医療機関と連携してリハビリテーションを実施し、これまでアプローチできなかった患者さんに新しいリハビリテーションツールを提供して、山形県の皆様の生活を応援したいと考えています。



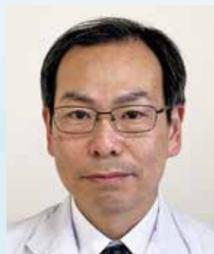
mediVRカグラを使ったリハビリの様子



実際に見えている仮想空間

新任教授のご挨拶

①出身地 ②出生年 ③出身校 ④趣味等

山形大学医学部 内科学第三講座
血液・細胞治療内科学分野 教授**横山 寿行**

YOKOYAMA Hisayuki

①神奈川県横浜市 ②1972年 ③東北大学 ④読書

2024年1月より、内科学第三講座血液・細胞治療内科学分野教授に就任いたしました横山寿行です。これまで東北大学病院など主に宮城県内の病院で勤務して参りましたが、27年前、初期研修医として医師のキャリアをスタートさせたのは山形県でした。その当時、ご指導いただいた先生が当講座の前教授であります石澤先生で、山形には不思議な縁を感じております。

私たちの専門である血液内科は、白血病やリンパ腫、骨髄腫といった難治性の疾患を扱う診療科です。これらの病気は古くから治療が困難とされてきましたが、近年治療成績は着実に向上しています。その原動力となっているものが、新規薬剤と造血幹細胞移植、細胞治療の発展です。これら新たな治療を遅滞なく取り入れ、皆様に最適な血液疾患治療をお届けできるよう尽力してまいります。また血液疾患は治療が長期にわたることもしばしば経験されます。このため、担当医は患者さん一人

一人の訴えに耳を傾け、その苦痛、悩みを解決していく力を持つことが非常に重要です。このような医療を自然に実践していくことができる医師の育成も行っていきます。

当講座は、全国的にも有数の治験実施数を誇り、血液疾患に対する新規薬剤開発において大きな貢献をしております。また、同種造血幹細胞移植の件数も増加しており、東北地方で常に上位を維持しています。さらにこの度、全国的にも数少ない施設としてキメラ抗原受容体T細胞療法(CAR-T細胞療法)の実施施設にも名を連ねることができ、すでに受け入れ体制を整えています。今後も、最適な治療を多くの患者様にお届けできるよう診療、教育、研究に努力して参ります。これまでと同様、我々の講座を温かく見守っていただけますと幸いです。どうぞ引き続きご支援を賜りますよう、心よりお願い申し上げます。

山形大学医学部
耳鼻咽喉・頭頸部外科学講座 教授**伊藤 吏**

ITO Tsukasa

①山形県大江町 ②1971年 ③山形大学医学部 ④スイミング、スポーツ観戦

2024年2月1日付で、欠畑誠治名誉教授の後任として耳鼻咽喉・頭頸部外科学講座教授を拝命いたしました。私は、今ではだいぶ知っている方も少なくなりましたがNHK連続テレビ小説「おしん」のふる里、大江町の出身で、地元山形の医療に従事したいという思いで、山形大学医学部を1996年に卒業しました。その後、旧南陽市立総合病院での研修、2013年度の山形市立病院済生館科長の経験を踏まえ、長年、山形大学医学部附属病院で勤務しております。

私は耳科学、聴覚医学、側頭骨外科を専門としており、側頭骨外科手術はスイス国チューリッヒ大学留学で研鑽を積みました。当教室ではこれまで聴覚に関わる内耳・中耳の再生医療、顔面神経障害の再生医療に関わる基礎研究、耳科手術のパラダイムシフトとも呼ぶべき低侵襲な経外耳道的内視鏡下耳科手術(TEES)の開発、さらに内視鏡と3D外視鏡併用によるヘッズアップサージェリーの有用性について国内外に発信しております。また、内視鏡を用いた接近拡大視による低侵襲手術

のコンセプトは耳科領域に留まらず、頭頸部の内視鏡補助下甲状腺手術(VANS)、内視鏡下咽喉頭手術(ELPS)、経口的咽喉頭部分切除術(TOVS)やナビゲーション併用内視鏡下鼻副鼻腔手術(ESS)などを行っています。さらには、難聴によるコミュニケーション障害を克服する人工内耳手術や、北海道・東北で唯一の頭頸部悪性腫瘍に対する重粒子線治療など、当科では全ての領域において低侵襲で安全性が高く、機能改善・機能温存を目指した治療に取り組んでおります。

今後も教室員ならびに同門会の先生方にご協力いただきながら地域医療に貢献していくとともに、当教室でこれまで培われてきた耳鼻咽喉・頭頸部外科学の臨床・研究をさらに発展させ、山形で開発したオリジナルな医学・医療技術を世界のスタンダードにし、一人一人の患者さんへの最高水準の医療提供を目指して邁進してまいります。

今後とも、何卒よろしくお願い申し上げます。

新任教授のご挨拶

①出身地 ②出生年 ③出身校 ④趣味等

山形大学医学部 臨床看護学講座
母性看護学・助産学 教授**藤田 愛**

FUJITA Megumi

①宮城県 ②1965年 ③東北大学大学院医学系研究科 ④芸術・建築・歴史にふれること

2023年5月1日付で臨床看護学講座の母性看護学・助産学の教授に着任いたしました。私は、東北大学医療技術短期大学看護学科ならびに専攻科を卒業後、総合病院で助産師として従事しておりました。その後、自身の出産育児をきっかけに、出張専門の助産院を開業し、地域の母子とその家族を支援してきました。この間、山形大学大学院博士前期課程を修了し、その後東北大学大学院博士後期課程を修了いたしました。

母性看護学や助産学は、女性の性と生殖に関わる健康(リプロダクティブヘルス)に関する看護領域です。現在、わが国の少子化は喫緊の課題ですが、健康な出産や育児を行うには、出産前の男女の健康問題へのケア(プレコンセプションケア)や妊娠中の体づくりも重要と考えます。現在は、大学院生とともに、女性の食事、日常生活動作、運動、そして睡眠をテーマに研究を行っています。また、多施設共同研究に参画し、各大学の

若手研究者のネットワーク構築にも力を入れています。

本学の助産教育は、2014年から開始し、今年で10年目を迎えました。助産学生は、4年間の看護教育と並行して助産学を学んでいます。加えて、社会から求められる助産師の役割は多岐にわたり、医師や臨床助産師からの指導を受けながら、高度な看護実践能力を高めています。現在、助産教育は転換期を迎えており、本学においても、大学院での助産教育が期待されています。

附属病院をはじめ、県内の実習施設では、丁寧な指導を受け、卒業生は素晴らしい活躍をしています。これからも、実践と知識を融合した教育を提供してまいりますので、今後とも皆様のご指導とご支援を賜りますよう、よろしくごお願い申し上げます。

山形大学医学部
解剖学第一講座 教授**川岸 久太郎**

KAWAGISHI Kyutaro

①京都府京都市 ②1971年 ③信州大学 ④写真・バイク

この度、2023年10月1日付で解剖学第一講座の教授を拝命しました川岸久太郎と申します。主として医学部で人体の構造について講義と実習を指導するとともに、神経系の再生や臨床解剖に関する研究を行っております。どうぞよろしくお願い申し上げます。

出身は京都市ですが、父親の仕事の関係でアメリカ、イギリスなど海外の複数の国で幼少期を過ごした経験があります。大学は信州大学医学部卒で、卒業すぐに同大解剖学講座に所属して教育・研究を続けておりましたが、2017年に千葉県成田市に英語で医学教育を行う国際医療福祉大学医学部が新設された際には、海外経験のある教員として解剖学講座の立ち上げに携わらせて頂きました。その後、肉眼解剖を指導できる後進教育を行いたいと山形大学に移ってまいりました。山形は、学生

時代を過ごした信州に似た気候や風土で、大変良い場所だと感じております。

さて、解剖学は医学の基礎となる知識で、医療現場においては診断・治療を正確・安全に行う上でも欠かせない重要な知識です。このため、山形県内唯一の医育機関として、医学生はもちろん、医師や、チーム医療を行う様々な医療職の方々の学生教育や生涯教育にも、高度な解剖教育の機会を提供できるよう、責任をもって取り組んでいきたいと考えております。

なお、本学における解剖教育は、山形県内の方々からなる篤志献体の会である「しらゆき会」の会員の皆様及びご家族の皆様の御理解と御協力が無ければなし得ません。関係者の皆様に心よりお礼申し上げますとともに、引き続き多くの方々に御理解と御協力を頂きますよう、心よりお願い申し上げます。

令和5年度 学会賞等受賞

CONGRATULATIONS

鈴木 修平 内科学第二講座 臨床腫瘍学分野
第120回日本内科学会総会・講演会 医学生・研修医の日本内科学会 ……令和5年4月
ことはじめ 2023 東京 優秀指導者賞

須賀 恭子 看護部
山形県看護協会感謝状 ……令和5年5月

青木 睦 看護部
山形県看護協会感謝状 ……令和5年5月

塩野 睦 看護部
山形県看護協会感謝状 ……令和5年5月

今野 弘子 看護部
山形県看護協会感謝状 ……令和5年5月

打田 和美 看護部
山形県看護協会感謝状 ……令和5年5月

加賀 紀子 看護部
山形県保健看護功労者知事感謝状 ……令和5年5月

塩野 睦 看護部
山形県保健看護功労者知事感謝状 ……令和5年5月

中川 智子 看護部
山形県保健看護功労者知事感謝状 ……令和5年5月

山本 友紀 看護部
山形県保健看護功労者知事感謝状 ……令和5年5月

星川さち子 看護部
山形県保健看護功労者知事感謝状 ……令和5年5月

菅井 康大 放射線医学講座 放射線診断学分野
第82回日本医学放射線学会総会 CyPos賞 Bronze Medal ……令和5年5月

伊藤 巧 血液内科
第48回日本骨髄腫学会学術集会優秀ポスター演題賞 ……令和5年5月

伏見 和朗 産婦人科
第153回 東北連合産科婦人科学会 若手奨励賞 ……令和5年6月

小林 良太 精神医学講座
Psychiatry and Clinical Neurosciences Reports Reviewer Award 2022 ……令和5年6月

小林 祐太 内科学第一講座
第29回 日本心臓リハビリテーション学会学術集会 一般演題優秀賞 ……令和5年7月

齋藤 朝子 看護部
日本エンドオブライフケア学会第6回学術集会 最優秀演題賞 ……令和5年9月

竹原 功 産婦人科
第70回 北日本産科婦人科学会総会・学術講演会 優秀演題賞 ……令和5年9月

山口 裕子 精神医学講座
第77回東北精神神経学会学術奨励賞 ……令和5年10月

鈴木 修平 内科学第二講座 臨床腫瘍学分野
第61回日本癌治療学会学術集会 Young Oncologist Award ……令和5年10月

久保田祐子 看護部
第61回日本癌治療学会学術集会 Medical Staff Award ……令和5年10月

折居 和夫 整形外科講座 (折居内科医院)
旭日双光章 ……令和5年11月

佐藤 公彦 重粒子線医学講座
第13回東北放射線医療技術学術大会(TCRT2023) 学術奨励賞 ……令和5年11月

濱本 洋 感染症学講座
2023年度 住木・梅澤記念賞 ……令和5年11月

石川 恵生 歯科口腔形成外科学講座
第二回日本唾液ケア研究会学術集会 優秀論文賞 ……令和5年11月

佐藤 大亮 検査部
第42回山形県医学検査学会 学会学術賞 ……令和5年12月

森岡 大智 精神医学講座
第28回日本神経精神医学会学会奨励賞 ……令和5年12月

平野 雄介 耳鼻咽喉・頭頸部外科学講座
令和5年度耳鼻咽喉科臨床学会賞 ……令和5年12月

今田 恒夫 公衆衛生学・衛生学講座
日本痛風・尿酸核酸学会学会賞 ……令和6年2月

三澤 英介 卒後臨床研修センター
第118回日本呼吸器学会東北地方会若手アワードセッション ……令和6年3月

佐藤 文佳 精神医学講座
PCN Reports Top download Article ……令和6年3月

高木 理彰 整形外科講座
公益社団法人中富健康科学振興財団 国際交流助成金受賞 ……令和6年3月

塩野 知志 外科学第二講座
第8回(令和5年)Surgery Today誌 Best Reviewer Award ……令和6年3月

※所属については、受賞時のものである。

人じん事じ往おう来らい

(R5.5.1~R6.4.1)

年月日	異動前	氏名	異動後	年月日	異動前	氏名	異動後
R5.5.1	(三重大学)	枚本 昌彦	採用 眼科学講座 教授	R6.2.1	耳鼻咽喉・頭頸部外科学講座 准教授	伊藤 吏	昇任 耳鼻咽喉・頭頸部外科学講座 教授
R5.5.1	臨床看護学分野 准教授	藤田 愛	昇任 臨床看護学分野 教授	R6.3.31	生理学講座 教授	藤井 聡	定年退職
R5.6.30	高度集中治療センター 講師	鈴木 博人	退職 (みゆき会病院)	R6.3.31	法医学講座 教授	山崎健太郎	定年退職
R5.7.1	高度集中治療センター 助教	小野寺 悠	昇任 高度集中治療センター 講師	R6.3.31	歯科口腔・形成外科学講座 教授	飯野 光喜	定年退職 (公立置賜総合病院)
R5.10.1	国際医療福祉大学解剖学講座 教授	川岸久太郎	採用 解剖学第一講座 教授	R6.3.31	臨床看護学分野 教授	齋藤 貴史	定年退職 (菊地胃腸科内科医院)
R5.10.31	脳神経外科学講座 講師	松田憲一朗	退職 (米沢市立病院)	R6.4.1	(東北大学)	外山 裕章	採用 麻酔科学講座 教授
R5.10.31	皮膚科 講師	村田 壱大	退職 (三浦皮膚科医院)	R6.4.1	眼科 講師	金子 優	昇任 眼科学講座 准教授
R5.12.1	脳神経外科 助教	伊藤美以子	昇任 脳神経外科学講座 講師	R6.4.1	病理診断学講座 講師	大江倫太郎	昇任 病理診断学講座 准教授
R5.12.31	放射線診断学分野 講師	柴田亜希子	退職 (山形県立中央病院)	R6.4.1	病理診断学講座 助教	樺澤 崇充	昇任 病理診断学講座 講師
R6.1.1	(東北大学)	横山 寿行	採用 内科学第三血液・細胞治療内科学分野 教授	R6.4.1	(山形県立新庄病院)	福井 忠久	採用 臨床腫瘍学分野 講師

編集後記

今回は、現在建設中のYU-MAIセンターに関する内容をご紹介しました。また、重粒子センターの取組や現状、Well-Being研究所で開発中のアプリ、最新医療に関する内容としてデジタル診療(デジタル病理検査室やリハビリ機器のカグラ)についてお伝えしています。

本院は、高度な医療を積極的、継続的に患者さんに提供する特定機能病院としての役割を果たすとともに、未来の医療を支える人材育成や関連病院とのネットワークのハブ機能など積極的に推進してまいります。

今後とも、本院では、より安心・安全な医療の提供に努めて参りますので、どうぞよろしくお願いいたします。

病院ニュース編集担当 総務課広報担当

